

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

製品名	苛性カリ（液体）
会社名	要薬品株式会社
住所	〒550-0003 大阪市西区京町堀3-2-7
担当部門	営業部
電話番号	06-6445-0444
FAX番号	06-6445-0458
緊急連絡先	同上
整理番号	K-100

推奨用途及び 使用上の制限	各種カリ塩類の製造、鉱山安全灯用、軟石鹼、医薬品（防腐剤）、漂白剤、炭酸ガス吸収剤、染料（インジゴ製造）、石油化学、蔞酸、ジメチルテレフタル酸の原料（合繊用）、鉱山精錬、化粧品原料、食品製造用（アルカリ剤及び中和剤）
------------------	--

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性又は引火性ガス （化学的に不安定なガスを含む）	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	支燃性又は酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分4
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（ガス）	分類対象外
	急性毒性（蒸気）	分類できない

	急性毒性（粉じん及びミスト）	分類できない
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器系）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	分類できない
	水生環境有害性（長期間）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

## GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷

重篤な目の損傷

臓器（呼吸器系）の障害

注意書き

## 【安全対策】

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

## 【応急処置】

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

## 【保管】

施錠して保管すること。

## 【 廃棄 】

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	水酸化カリウム（水溶液）
別名	苛性カリ
濃度又は濃度範囲	5 ～ 48%
化学式又は構造式	KOH
官報公示整理番号	化審法・安衛法：(1) - 369
CAS番号	1310-58-3

## 4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させる。身体を毛布等で覆い、保温して安静を保つ。呼吸が弱い場合やチアノーゼが認められた場合は酸素吸入を行う。直ぐには症状が認められなくても、必ず医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服や靴を速やかに脱がせる。付着又は接触部を石鹼と多量の水で洗い流す。外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は速やかに医師の診断を受ける。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると皮膚の障害を生ずる恐れがある。
眼に入った場合	直ちに多量の水で水道水で瞼の隅々まで15分以上洗浄し、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外す。洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球、瞼の隅々まで水が行き渡る様に洗浄する。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると眼の障害を生じる恐れがある。
飲み込んだ場合	水で口の中をよくすすぐ。患者に吐かせようと試みると、かえって危険を増す場合があるので、絶対にしてはならない。意識を失っている患者には何物も与えてはならない。速やかに医師の診断を受ける。
最も重要な徴候及び症状 応急処置をする者の保護 医師に対する 特別な注意事項	眼、皮膚の障害。呼吸器障害による肺機能低下、呼吸困難。 二次汚染防止のため、化学防護手袋等を着用して応急処置をする。 本製品のミスト、蒸気、スプレーを吸入した恐れがある場合は、症状がなくても、被曝後24時間は経過を観察する。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤	本製品は不燃性である。周辺火災には適切な消火剤を使用する。
特有の危険有害性	アルミニウム、チタン、亜鉛及びそれらの合金と反応して引火性、爆発性の水素ガスを発生する。
特有の消火方法	消火作業は可能な限り風上から行う。火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。容器周辺が火災の場合は、容器に外部から放水して冷却する。消火するための放水により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう、適切な処置をする。
消火を行う者の保護	空気呼吸器、化学用保護具、防護衣、ゴム長靴を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時処置

作業の際は、飛沫等が眼に入ったり皮膚に触れないように、又、有害なミストを吸入しないように、適切な保護具を着用する。風下にいる人を退避させ、風上から作業する。漏出した場所の周囲にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項  
封じ込め及び浄化の方法  
及び機材

流出した製品の河川、排水路、下水溝等への流入を防止する。可能であれば、漏出源を遮断し、漏れを止める。少量の場合は、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。大量の場合は、盛り土や土嚢で囲って流出を防ぎ、防爆型ポンプ等で密閉できる空容器に回収する。残留物は希酸（酢酸が望ましい）で注意深く中和した後、大量の水で洗い流す。密閉できる空容器に回収し、適切に廃棄処理する。適切な消火剤を準備する。屋内の場合、気中濃度が危険な濃度に達しないよう、適切に換気する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

技術的対策

取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行う為の設備を設置する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

局所排気・全体換気  
安全取扱注意事項

取扱う場所は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取扱う。みだりに粉塵、ヒュームが発生しないように取扱う。屋外で取扱う場合は、出来るだけ風上から作業する。あらゆる接触を避ける。着衣、皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らない様に、又、発散した蒸気・ミストを吸い込まない様に適切な保護具を着用する。取扱い後に手、顔等をよく洗う。取扱い場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。酸性物質との接触を避け、容器は密閉して冷暗所に保管する。

衛生対策

ミスト、蒸気、スプレーを吸収しない。腐食性があるため、眼、皮膚への接触を避ける。屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。当製品を使用する時は、飲食や喫煙はしない。取扱い後は顔や手をよく洗う。

## 保管

技術的対策

容器は密閉して冷暗所に施錠して保管する。

保管条件

冷暗所

容器包装材料

耐アルカリ性密閉容器

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備等を設ける。

管理濃度

未設定

許容濃度

ACGIH TLV-STEL (2013) (Ceiling) 2mg/m<sup>3</sup>

日本産業衛生学会 (2013) (最大許容濃度) 2mg/m<sup>3</sup>

## 保護具

呼吸器の保護具

空気式呼吸器

手の保護具

保護手袋 (ゴム手袋等)

眼の保護具

顔面シールド又は保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

保護衣 (化学用保護衣等)

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	無色透明の液体
臭い	無臭
pH	強塩基性
沸点、初留点 及び沸点範囲	140℃（48%水溶液）
引火点	燃焼性なし
燃焼又は爆発範囲 の上限・下限	爆発性なし（不燃性）
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重（相対密度）	1.4907（48%水溶液）
溶解度	水：1100g/ℓ（25℃）
n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
その他のデータ	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	常温では安定である。
危険有害反応可能性	酸との混触により発熱する。
避けるべき条件	当製品に水を注いではならない。（激しく発熱する）
混触危険物質	二酸化塩素：爆発の可能性 アクロレイン：非常に激しい重合反応の危険性 ニトロ化合物：衝撃に極めて敏感となる危険性 アルミニウム、チタン、亜鉛、スズ等の金属を腐食して水素ガスを発生し、これが空気と混合して引火爆発することがある。
危険有害な分解生成物	乾固すると劇物の固体水酸化カリウムとなる。 固体水酸化カリウムは亜鉛、アルミニウム、クロム等金属と混触すると可燃性ガス（水素）を発生する。 固体水酸化カリウムは強熱により酸化カリウムと水素を発生する。

## 11. 有害性情報

製品の有害性情報	本製品の有害性情報データなし
成分の有害性情報	
【 水酸化カリウム 】	
急性毒性	経口：ラット LD50 284mg/kg 経皮：データなし 吸入：データなし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギ、ヒトに対して腐食性あり。
眼に対する 重篤な損傷性又は眼刺激性	ヒトに対して不可逆な障害があり、ウサギの試験で腐食性あり。
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	モルモットの試験で陰性
生殖細胞変異原性	Ames 試験で陰性

発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	水酸化カリウムの粉塵又はミストを吸入ばく露すると、鼻・気管・気管支に熱傷等の障害を起し、肺水腫にまで至る。
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	データなし
吸引性呼吸器有害性	水酸化カリウムの吸引により化学性肺炎を起し、死亡することがある。

## 12. 環境影響情報

製品の有害性情報	本製品の有害性情報データなし
成分の有害性情報	
【 水酸化カリウム 】	
生態毒性	データなし
残留性・分解性	残留性はなし
生体蓄積性	生体蓄積性はなし
土壤中の移動性	環境中に放出された場合、大部分が水系に移動する。
オゾン層への有害性	非該当

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄する際は、関連法規並びに地方自治体の規準に従う。廃棄処理する場合は、水を加えて希薄な溶液とし、酸（希塩酸、希硫酸等）で中和した後、多量の水で希釈して処理する。白濁している場合も同様に行う。白濁物は空気中の炭酸ガスと反応して生成した炭酸カリウムである可能性が高く、この白濁物は希酸で中和する際に溶解する。都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに処理を委託する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知する。
汚染容器及び包装	容器は十分な水で洗浄してからリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。白い晶出物は炭酸カリウムか固形水酸化カリウムである可能性が高い。希酸で中和して残余廃棄物として捨てた後、包装材料を十分な水で洗浄する。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	
国連分類	クラス 8（腐食性物質）
品名	POTASSIUM HYDROXIDE SOLUTION
国連番号	1 8 1 4
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
国内規制	
毒物及び劇物取締法	劇物（指定令第2条）
船舶安全法	腐食性物質（危規則第3条 危険物告示別表第1）

港則法	危険物・腐食性物質（法第21条2、規則第12条）
航空法	腐食性物質（施行規則第194条 危険告示別表第1）
道路法	車両の通行の制限（施行令第19条の13）
運送の特定の 安全対策及び条件	運搬する場合には、飛散し、漏れ、流出、又はしみ出ることを防ぐのに必要な処置を行じる。食品や飼料と、また酸類と混載して輸送してはならない。輸送前に容器の破損、腐食等がないことを確認する。車両、船舶には保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具等を備えておく。移送時にイエローカードの保持が必要である。
緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号：154	

## 15. 適用法令

毒物及び劇物取締法	： 劇物（指定令第2条）
労働安全衛生法	： 通知対象物（第57条の2、施行令第18条の2別表第9） 腐食性物質（規則第326条）
労働基準法	： 疾病化学物質（第75条第2項、施行規則第35条別表1）
海洋汚染防止法	： 有害液体物質（Y類）（施行令別表第1）
水質汚濁防止法	： 指定物質（法第2条第4項、施行令第3条の3）
航空法	： 腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）
船舶安全法	： 腐食性物質（危規則第3条危険物告示別表第1）
港則法	： 危険物告示・腐食性物質（第21条の2、規則第12条）
道路法	： 車両の通行の制限（施行令第19条の13）
食品衛生法	： 指定添加物（食品添加物のみ適用）（施行規則第12条別表第1）
化学物質管理促進法 （P R T R法）	： 指定化学物質に該当しない

## 16. その他の情報

引用文献	US NIOSH : Registry of Toxic Effects of Chemical Substances ( RTECS ) ( No.TT2100000 ) WHO/IPCS : International Chemical Safety Cards. No.0357 UNEP : SIDS Initial Assessment Report. SIAM 13, Potassium Hydroxide, CAS : 1310-58-3(2001) 中災防安全衛生情報センター : MSDS情報/モデルMSDS 社団法人 日本化学工業協会 : 緊急時応急措置指針 (指針No.154) 東京消防庁警防研究会監修 : 危険物データブック、丸善 カリ塩懇話会 : カリ塩工業ポケットブック 化学薬品の混触危険ハンドブック、日本工業新聞社 USNLM : Hazardous Substances Data Bank. (HSDB) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構HP : GHS分類結果 Patty's Industrial Hygiene and Toxicology. 5th Ed. (2005) ACGIH (2013) 日本産業衛生学会 (2013)
------	---

本安全データシート（SDS）記載内容は、現時点で入手できる最新の資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがありますので、含有量、物理的・化学的性質、危険・有害性などに関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、SDS中の注意事項は通常の手扱いを対象にしたものですので、特殊な手扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。